

い印象を捉へたと思われるよい特徴が把握されている。たゞ私が氣になつたのは、縁（ヘリ）が色づくなら隈（クマ）であつて、棲（ツマ）というからには先端部の何か他の部分との不連続さから來ているのではないかと思うのと、これと平行したツマトリサウの葉の特徴が實は氣になつていたのである。大抵の植物の葉はどうも葉一面に大體一つ色調である。ところがツマトリサウではあの艶のない軟らかな緑の色が中央から柄に近い方は一樣であるが葉の先に近づくにつれて、ぼかすかのように如何にも濃くなり、それも碧綠色に近い色になつて來てそれから先端に終るまで同一色を呈する。これは珍らしいことだが、實によい特徴だと思ひ、人にも話したことがあるが、これが葉全體からみれば深かみどりの棲取りに見えひいては語源ではないかと愚考するので、こゝにこの考へ方を述べて見たのである。

○植物分布資料 (故寺本一雄)*

Drymotaenium Miyoshianum Makino クラガリシダ 本種は本州中部、四國、臺灣、中南支那に分布する多肉質の長い線形の羊齒である。信濃下伊那郡大鹿村大河原（海拔約 700 米）で採集した（Jul. 21. 1947）

Diplazium nipponicum Tagawa オニヒカゲワラビ シロヤマシダに似た大形の羊齒で従來、九州北部、四國、中國、近畿中南部、北陸、上總（三石山）、羽後等に知られてゐる。伊豆湯ヶ島猫越川沿ひで採集した（Oct. 22. 1944）

Plagiogyria japonica Nakai キジノラシダ 本州南部、四國、九州の特産の暖地性羊齒で三浦半島には少いが相模三浦富士山で採集した。

Rumohra aristata Ching var. *pseudo-aristata* H. Ito. コバノカナワラビ 本州南部から臺灣に分布する暖地性羊齒である。*R. aristata* ホソバカナワラビは相模にも多いが、本種は伊豆、房總には多いが相模にはあまり見掛けない。筆者の知る限りでは相模鎌倉比企ヶ谷に自生する。

Cymbidium nagifolium Masamune ナギラン 本種は本州南部、四國、九州、琉球、臺灣に分布する暖地性の種類で紀伊半島以東には少い。相模逗子の一部に自生してゐるし、鎌倉でも數年前採集された事があると聞く。

Microlepia pseudo-strigosa Makino フモトカゲマ フモトシダに非常によく似てゐて中間型で連絡してゐるともみられる二回羽狀複葉の羊齒である。*M. marginata* var. *bipinnata* クジャクフモトシダとの區別に至つては實に微妙である。本種を安房天津で採集した。（Nov. 5. 1945）

* 寺本一雄君は昭和 22 年東京大學理學部植物學科に入學し、分類學を専攻する意途のもとに熱心を採集と研究とを行つてた前途有望な學生であつたが、惜しくも昭和 23 年 9 月 脚氣衝心で鎌倉の自宅で急逝した。この一文は同君の殘した唯一のものであるが、三浦半島の如きほとんど判りつくしたかと思はれる場所でおおつこのようを記録を残したことは同君の採集の充實さを示すもので、それだけに同君の急逝は惜しい事であつた。

（前川文夫記す）